



49

うんがこうえん 運河公園

兵庫県姫路市北条

姫路市は、兵庫県の南西部に広がる播磨平野の中央部に位置し、南は景勝の瀬戸内海国立公園に面し、北は緑豊かな西幡丘陵県立自然公園を擁する自然に恵まれた街である。さらに、東海道と山陽道の結び目に近いことから交通の要衝として栄えてきた街である。〔文化・観光〕姫路城、書写山円教寺、手柄山中央公園、名古山霊苑

JR姫路駅から一直線にのびる、通称「三左衛門堀」は、姫路城を築城した池田三左衛門輝正が開削したものである。三左衛門堀は時代の変遷とともに荒廃の一途をたどっていたが、駅南部の急速な発展にともない、堀の改修が急務となり、昭和三十七年に「運河公園」として都市計画を決定し、その後河川と公園一体の整備をすすめてきた。

中でも、「一の切区間」は、由緒ある歴史的な立地条件を考慮し、カラー敷きブロック遊歩道、藤棚、石積み二段式花壇を設け、シンボルコーナーにはミニチュメント、噴水「飛翔の竜泉」を配し、都市部の貴重なオープンスペースとして、付近住民のみならず多くの市民の憩いと散策の場として親しまれている。

